

奨励賞

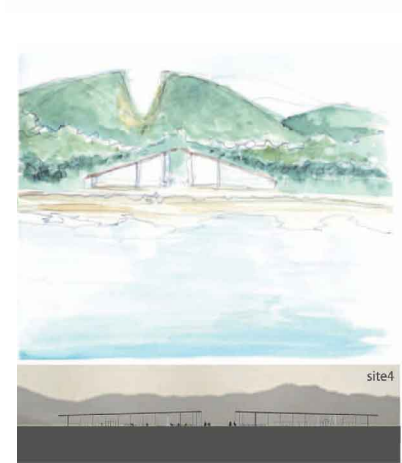
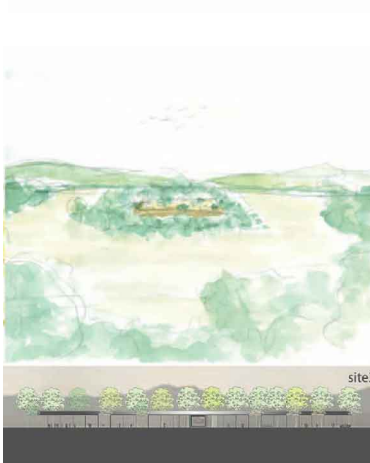
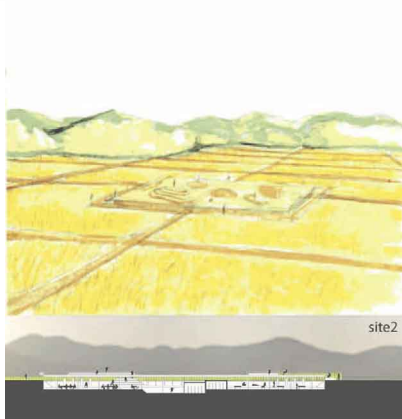


## 佐渡の修景

荒海や佐渡に横たう天の川

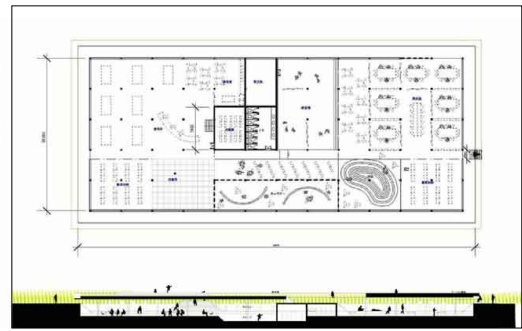
関 佳子 (せき よしこ)

日本大学 生産工学部 建築工学科



新潟県佐渡島では、田園や里山の素朴で雄大な景観が望める。しかし、島の中央部を通る国道350号線沿道に無秩序に商店や公共施設が乱立し、佐渡の美しい自然景観が失われつつある。そこで本計画では、佐渡の景観と調和した佐渡固有の拠点施設を提案する。まず修景計画として、350号線周辺に散在する施設の集約化・拠点化を図ることで美しい自然景観を取り戻す。次に拠点施設は350号線一里毎(4km)に配置する。これら4つの拠点施設はそれぞれ能楽・農産物、とき、金山と各地域の特色を反映する機能を持つ。

「荒海や佐渡に横たう天の川」松尾芭蕉は、この句を残した。この修景計画によって、生み出された一筋の道沿いの賑わいは、まるで佐渡に横たわる天の川のように輝きを放つ。



【講評】この建築には、夢があり、ロマンがある。佐渡島には北に大佐渡山、南に小佐渡山、その山に、大切に守り包まれるように国仲平野があり、中央部を走る動脈国道350号線沿いが、この建築の場である。この場所にも、慣れた箱ものが一つ、またひとつ並んできた、経年この場所を自分の目で見てきて、「何かが違う」違和感、危機感を作者は感じた。

「佐渡の修景を守るために」4つの異なる機能を持たせた施設を配した。これらが、起点となり、佐渡の自然、文化、伝統、物産...美しい大地に育まれた佐渡の心を結んでいく、やわらかいタッチで描かれた施設群は、どれも環境に調和し、建築への深い意図がセンスよく表現されている。最後に、日本の美しい修景は、いたるところで、壊され、修復にもいたっていない場所が数多くある。佐渡の美しい修景を守りたいと、感じたその心のあり様を大切に、今後は、実践の場で、その情熱「建築を作る者の心」の炎を燃やしてほしいと思います。

(審査員：信太義晴)